



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway

一般社団法人
日本クリニカルパス学会

No.
48

発行日
2025年3月25日

in 愛媛

第24回日本クリニカルパス学会 学術集会 開催報告

2024.10.4~5

第24回学術集会 会長、国立病院機構四国がんセンター
羽藤慎二

2024年10月4日(金)、5日(土)に愛媛県松山市の愛媛県民文化会館および愛媛看護研修センターにて第24回日本クリニカルパス学会学術集会を開催いたしました。本学術集会が松山で開催されますのは、河村進先生が学術集会会長をつとめられた第11回学術集会につづき2回目でしたが、盛会のうちに終了することができました。四国の地方都市での開催にもかかわらず、約1,700人近い参加登録をいただき、北は北海道から南は沖縄まで全国より多くの方にご参加いただきました。

学術集会テーマについては、2024年がちょうど日本クリニカルパス学会の設立25周年にあたる年だったことから、『温故知新 クリニカルパスのこれまで、現在、これから』と決めました。これは、『これまでのパスの歩みを振り返り、今直面している現状を見つめ直しながら、今後のクリニカルパスのあり方を共に考えたい』という私の思いによるものでした。それに関連して『日本クリニカルパス学会委員長会議～学会のこれまで、現在、これから～』と題したパス学会設立25周年特別企画を設けましたが、クリニカルパスとパス学会のこれまでの歴史と今後向かってゆく未来について、皆で共有する良い機会になったと思

ます。

シンポジウムとパネルディスカッションでは、バリエーション分析、チーム医療・他職種協働、人材育成・パス教育、地域連携、パス活動など従来から重要とされるテーマに加えて、最近の話題である、ePath、働き方改革・業務効率などについてプ



羽藤学術集会会長

ログラムに盛り込みました。また、今後のさらなるパス発展において重要と考えられる医療情報関連のセッションを充実させました。招待講演では、一般社団法人医療データ活用基盤整備機構の岡田美保子先生に、医療情報のこれまでの技術革新と今後の展望について、初心者にもわかりやすく講演していただきました。また、日本医療情報学会と日本クリニカルパス学会の共同企画ではePath関連の活動や今後の展望について発表があり、ワークショップではBOMについてグループワーク形式で楽しく学ぶことができました。そのほかにも、教育講演ではチーム医療・他職種協働について、コーチ・エイの大塚志保先生に対話とコーチングの重要性をご教示いただきました。教育セミナーでは2日目の午後にもかかわらず多くの参加者の熱気であふれ、皆様のパスへの情熱をあらためて感じました。

一般演題は、口演207題、ポスター107題とコロナ禍以降で最大の発表数となりました。多くの応募と発表をいた



大会関係者メンバー集合写真



学術集会賞表彰式

できましたこと、あらためて感謝申し上げます。一般演題セッションでは座長賞を設け、また懇親会では、学術集会賞セッションのノミネート10題にメダル授与を行い、最優秀1題、優秀2題を表彰いたしました。このような取り組みが、発表者へのモチベーションとなって次回の学術集会でさらに多くの発表が行われることを期待しています。

会場では学術活動だけではなく学会中のお楽しみとして、蛇口からみかんジュース、愛媛のイメージアップキャラクターみきゃんのグリーティング、真珠・砥部焼・今治タオルのガチャガチャ、水引作成体験、リラクゼーション、キッチンカーなどを企画しましたが、楽しめましたと多くの方からお声をいただきました。

今回、特筆すべき事柄としては、本学術集会中に、山中英治先生から勝尾信一先生に理事長職が継承されました。理事長在任中の山中先生には、本質をとらえる視点と行動力、そして明るく魅力的なお人柄で我々学会員をお導きいただきました。この場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。

最後になりますが、第24回日本クリニカルパス学会学術集会の開催を通じて、たくさんのパス仲間が全国にいることをあらためて感じました。本当に多くの方に助けていただいていたからこそ成り遂げられた学術集会でした。ご協力いただきました全ての皆様へ心より感謝申し上げます。次回、富山の地で皆様にもまたお会いすることを楽しみにしています。



みきゃんと山中英治前理事長



会場内光景

in 愛媛

第24回日本クリニカルパス学会 学術集会 学術集会賞最優秀賞を 受賞して

2024.10.4~5

富山県立中央病院
石井貴之

このたび、第24回日本クリニカルパス学会学術集会において最優秀賞に選出いただき、大変光栄に思います。私の発表演題は「医療連携システムとSNSを活用した皮膚科バイオ製剤病診連携パス」です。バイオ製剤市場は年々拡大の一途をたどっています。一方で、バイオ製剤の導入・管理には血液検査や画像検査を要し、画像検査機器を持ち合わせていない皮膚科開業医ではなかなか普及が進んでいません。そこで、開業医のバイオ製剤利用をサポートする目的で病診連携クリニカルパスを作成しました。導入時をはじめとした検査関連は病院が担当し、維持管理を開業医が担当することで各自の役割分担を明確にし、時間や労力の掛かる医療費説明や自己注射指導などをタスクシフトして効率化を図りました。また、専用の診療情報提供書を導入することで患者の治療目的をはっきりさせるなどのさまざまな工夫をしています。加えて近年の医療DX化の背景を踏まえ、医師会の地域連携ネットワークシステムを利用して病院と開業医とで治療情報を共有し、専用SNSを開設して病診連携の在り方やクリニカルパスの改定における意見交換の土台の場を設けました。現在も富山県全体にバイオ製剤の病診連携を拡大すべく、継続的に活動を行っています。この取り組みは当院の多職種以外に、地域の開業医や門前薬局などの多数の方々のご協力があったからこそ成り立つものです。関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。また、クリニカルパス活動についてこれまでご指導いただいた臼田和生先生やクリニカルパス委員会のメンバーの方々にもこの場を借りて感謝の意を述べさせていただきます。皮膚科はいわゆるマイナー領域で、正直クリニカルパ



石井貴之氏

羽藤慎二学術集會会長

ス学会でも演題を目にする機会は少ないと思います。クリニカルパス学会の利用調査においても皮膚科でのクリニカルパス利用率が他科に比べて低いという課題もあります。そんな目立たない領域の取り組みにスポットライトをあてていただき、学術集會賞セッションに選んでいただいただけでも嬉しい限りでしたが、最優秀賞を受賞できたことは、今後の自身のクリニカルパス活動において大きなモチベーションとなりました。何よりも学術集會賞セッションで発表された当方以外の全ての演題はどれも甲乙つけがたい非常に魅力的な発表であり、今後も他演題のような素晴らしいクリニカルパス活動に追いつき追い越せるように精進できればと思います。

【日本クリニカルパス学会 第24回学術集會賞 受賞者】

最優秀賞：

- 1-C-05 「医療連携システムとSNSを活用した皮膚科バイオ製剤病診連携パス」
富山県立中央病院 石井 貴之

優秀賞：

- 1-C-03 「入院前の看護師の働きかけと部署、説明時間、パスの関係」
高知県立大学 宮地佐和子
- 1-C-10 「標準化クリニカルパス「ePath」を基盤とした予測モデルの開発」
九州大学大学院 藤 沙織

ノミネート賞

- 1-C-01 「腎盂腎炎に対するセフメタゾールパスが抗菌薬適正使用に与える効果」
トヨタ記念病院 大池 恵生
- 1-C-02 「転倒予防のために不眠時指示を変える取り組み」
自治医科大学附属病院 井上 泰一
- 1-C-04 「患者からみたクリニカルパス(患者用パス)の評価」
東京都立病院機構駒込病院 古川 宗明
- 1-C-06 「多職種連携による脳梗塞クリニカルパス改訂後



齋藤登編集委員会副委員長 白井純宏氏 田中良典編集委員会委員長



松永真由美氏 和田晋一氏 荒木太亮氏 今田光一
学術・出版委員会委員長

の効果」

- 福岡徳洲会病院 東 温子
- 1-C-07 「多職種連携を取り入れたDCF療法パスを導入した成果」
- 愛知県がんセンター 倉石 幸治
- 1-C-08 「当院e-learningシステムを用いた入門者向けクリニカルパス研修」
- 前橋赤十字病院 春山 滋里
- 1-C-09 「院内パス・コーディネータ養成講座におけるパス認定士の役割」
- 青森県立中央病院 畠山 涼子

【2024年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

研究報告：第26巻第1号掲載

- 「新しい周期管理システム構築に向けた取り組み」
済生会熊本病院 白井 純宏

【2024年度日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞】

- Practical Utility of a Clinical Pathway for Older Patients with Aspiration Pneumonia: A Single-Center Retrospective Observational Study
(J Clin Med. 2023 Dec 30;13(1):230.)
長野県立信州医療センター 感染症センター 荒木 太亮
- Satisfaction Survey for Regional Clinical Pathway for Stroke Patients in Acute and Rehabilitation Hospitals in Japan
(Prog Rehabil Med. 2023 Jul 14;8:20230021.)
関西電力病院 脳神経内科 和田 晋一

Perceived Barriers and Intention to Implementing an Integrated Clinical Care Pathway for Gestational Diabetes Mellitus into Hospitals: A Mixed Methods Study
(Annals of Mixed Methods Research, 2(2) 203-225, Sep, 2023)

上智大学 総合人間科学部看護学科 松永 真由美

on Web

2024年度クリニカルパス教育セミナーに参加して

2024.7.6

弘前総合医療センター
櫻庭弘康

当院では2024年10月に病院機能評価の受審を控えていることもあり、院内のクリニカルパスを再度見直し、さらに広めていくにはどうしたらよいかという想いで今回のクリニカルパス教育セミナーに参加しました。以前は、日帰りで山形や東京に出向いていたセミナーが、オンライン形式で自宅から受講できるようになり、本州最北端の県に住む私たちにとって移動等の時間や負担が軽減され、受講のハードルが低くなりました。そういうこともあり、当院からの参加者も増えつつあります。

さて、教育セミナーについてですが、前半では「アウトカム志向パスについての基礎講義」が行われました。森影先生によるアウトカム志向パスの作成・運用方法の講義は、例によって非常に整理されており、図解を用いたきれいなスライドでわかりやすく、そのまま院内でのパスの説明に使いたいくらいです。勝尾先生によるバリエーション分析の講義では、パス使用後の見直しについてバリエーション分析を中心に具体的に説明され、非常に理解しやすかったです。当院では「センチネル方式」でバリエーション分析を行っていますが、電子カルテのパス集計機能が上手く使いこなせず、時間がかかってなかなか進みません。人材の確保も含め、より効率的な仕組みづくりの必要性を強く感じました。

後半の「院内パス活動の具体的事例の紹介」では多職種の講師の先生による自院での取り組みについて5つの講演がありました。当院のパス委員会では今年度は手術パスへのがんりハの組み込みを目標に掲げていることもあり、山下先生の「理学療法士の立場でのクリニカルパス活動」は、まさにタイムリーで非常に参考になる内容でした。しかし、当院ではパスとリハビリ処方オーダーが連動できず、そ

の運用に頭を悩ませている状況です。

また、目黒先生からは診療情報管理士、村上先生からは看護師の立場からの事例も紹介されました。いずれも国立病院機構の病院から取り組みでしたが、地域グループが異なるとなかなか情報の入手が難しいため、今回のような貴重な機会を活用し、同じ機構内での取り組みを知ることで、病院幹部への提案がしやすくなると感じました。また、小島先生からはパスへの医師事務作業補助者の関わり方や高志先生からは済生会熊本病院のパス活動についての事例紹介もあり、当院でも同様の取り組みが実現できる環境を整えようと、羨ましく思いながら拝聴しました。

毎回感じるのですが、講演を聴くとパスのPDCAサイクルを回して改善活動を行なおうとする意欲が高まるのですが、実際にやろうとすると、ベンダーや部門システムの違いにより挫折することが多いのが現状です。願わくは、バリエーション集計や分析の方法はベンダーによらず、簡便化・標準化されることを期待しています。そうなれば、手段に時間を費やすことなく、臨床現場へのフィードバックが迅速に行え、医療従事者と患者双方にとって、より満足度の高い医療が提供できるようになるでしょう。

今回の学びを生かし、当院でもクリニカルパスのさらなる発展と改善を目指して取り組んでいきたいと考えています。

近江八幡市立総合医療センター
池田裕樹

今年度もライブ配信で開催された教育セミナーを受講しました。今年は何と7名の豪華な講師陣による講演が行われ、より一層学びが深まったと感じています。

第一部は森影先生と勝尾先生による「アウトカム志向パスについての基礎講義」というテーマでご発表いただきました。森影先生からは「アウトカム志向パスとは何か」という基本概念から、パス作成や活用に至るまで、初心者にも分かりやすく解説されました。次に、勝尾先生からはバリエーション分析に焦点を当てて解説されました。当院でもパスは作成したもの、見直しが進んでいないと感じております。バリエーション分析には時間と労力がかかるため難しいと考えていましたが、まずはできることから始めてみようと思いました。

第二部は「院内パス活動の具体的事例の紹介」というテーマで、5施設からの事例発表が行われました。各職種の立場から、それぞれの施設が実施している院内パス活動の具体的な取り組みや成果について詳しく紹介されました。

まず、高志先生はパス活動のリーダーとしての立場からとして、病院全体でのパス推進を行うために、JCI認証取

得を契機とした委員会活動やパス改善活動についてご紹介いただきました。次に、村上先生からは看護師の立場からとしてリンクナースの活動内容についてご発表されました。パス作成や修正に留まらず、マニュアル作成や勉強会の企画など、多岐にわたる活動に携わっている様子に感銘を受けました。小島先生からは医師事務作業補助者の立場からとして、電子カルテの操作に精通した医師事務作業補助者がパス活動に関与することで、医師だけでなく多職種全体をサポートし、円滑なパスの作成に大きく貢献されておられました。山下先生からは理学療法士の立場からとして、周術期リハビリパスを活用してリハビリの介入効果を可視化し業務効率化を検討するという内容は非常に示唆に富むものでした。最後に、目黒先生からは診療情報管理士の立場からとしてご発表されました。私も診療情報管理士として、DPC入院期間Ⅱに準拠したパス作成やアウトカム志向パスの改定など、非常に共感を覚える内容でした。

講演後のよろず相談では参加者から活発な意見交換が行われました。現場目線での質問が飛び交い、ディスカッションを通じて具体的な解決策について深く掘り下げる場となりました。

今回のセミナーで学んだことを院内で共有し、実務に活かせるようパス活動を行っていききたいと思います。

in 東京

第4回指導者養成コース報告

2024.2.24~25

兵庫県立尼崎総合医療センター
中橋 達

指導者養成コースが4年ぶりに開催され、全国各地から医師、看護師、臨床情報管理士、社会福祉士、理学療法士総勢34名が参加しました。この研修は1泊2日の中で各々が6つのグループに分かれて実際にクリニカルパス研修を計画・実施するというもので、前回第3回は徹夜組も現れた医療界で最もハードな研修の一つと思われます。それを反映してか、初日の朝は参加者それぞれが不安と緊張を隠せず、やや重い雰囲気も漂っていました。

しかし、講師の先生の講義が良いアイスブレイクとなり、各グループに分かれて研修計画を立てる頃には、各グループ内で非常に活発な討議が始まりました。私のグループは現場の最前線にいるメンバーが多く、現場にいる人間へのパス教育という比較的共通した課題を持っていたため、登山をパスに置き換えたグループワークを行うこととしまし



参加者集合写真



講義風景



検討風景

たが、他のグループも旅行パスや受験パス、カレーライスパスなどのグループワークを行う方針としたのがほとんどであり、改めて「まずパスに興味を持ってもらう」という入り口の部分が多施設でも課題になっていることを痛感しました。

講師の先生の講義や懇親会を挟みながら、夜遅くまで1日かけて研修計画を完成させていきます。各グループそれぞれのやり方で進めているようでしたが、時間がないという切迫した気持ちとは裏腹に非常に充実した時間が流れていました。普段は職種も立場も違う人間同士が「良いパス研修を作成したい」という想いだけでつながり、学生時代の文化祭や部活動を思い出すような雰囲気になる。医療の世界でこれほどまでに他職種と一体になれる仕事はパス活動以外には思いつきません。ここにパス活動の神髄をみた気がしました。

2日目はパス研修の実施と別のグループの研修聴講を交互に行いました。各グループそれぞれに工夫があり、手直しをすればそのまま自施設の研修に使えるものばかりでした。私も自グループの研修資料をアップデートし、セミナーでも課題にあがった初期研修医へのパス研修を実施することになりました。研修が即実地に活かせるのもこの研修の醍醐味の一つです。

最後になりますが、講師の先生や他の参加者の皆様のおかげで非常に充実した研修になりました。ありがとうございました。そして、まだ参加されていない方には第5回以降の参加を強くお勧めします。ご自身のパス活動の世界が、さらに広がることをお約束して。

当院クリニカルパス推進委員会に所属して10年が経過し、日々パス活動を行っていますがパス運用に関しての問題点を掲げても、パスについて議論できる仲間が非常に限られているのが現状です。院内パスの進化に向けて、今後もパス活動を推進していくためには、まず問題解決ができる知識を習得すること、パス仲間を作ることが必要だと考え、このたび、指導者養成セミナーに初めて参加させていただきました。

研修会館に到着後、まずセミナー目標の2行が目に入ります。

- ①パスを正しく理解する
- ②パスを教育できるようにする。

これこそ今の私に必要な言葉だとモチベーションの上がる開幕となりました。

分刻みのスケジュールで始まったセミナーは、トヨタ記念病院 岡本泰岳先生の基調講演から始まり、研修に参加することの意義やPDCA・SDCAサイクルの両輪についてレクチャーを受けます。そして、私たちのグループは看護師、理学療法士、大学病院職員で構成されており、それぞれがパス運用への関わり方が違うため話が絶えず、あっという間に時間が過ぎていきました。各々が持ち寄った資料を参考にしながら、模擬研修の計画立案、研修内容の具体化、タスクの組み立て作業を進め、パス初心者に向けた講義として「パスの概要(目的・定義)」「パス〇×クイズ」「パス作成ワーク」の3つでプログラム構成を行いました。〇×クイズでは、国家試験の問題を出題し全問合格者には表彰状を作成しました。パス作成ワークでは、各グループで旅行パスを作成、旅行というキーワードにパス用語をリンクさせ、アウトカムを『第24回パス学会学術集会に参加する』に設定「愛媛で開催されるパス学会に参加し先輩の発表を聴講する」という目標を立案しました。参加者ご自身の携帯で学会会場までの交通手段、愛媛の特産や土産を検索しパスを完成させ発表までを行い、アンケートには「楽しかった。内容も現実的でよかった」「クイズの全問正解者への表彰は良いアイデアだった」と意見をいただきました。

コロナ禍が明け、4年ぶりに開催された研修に参加できたこと、同じグループの方と情報交換を行い、パス仲間ができたこと、つくし野病院 勝尾信一先生、NTT東日本関東病院 村木泰子先生のミニレクチャーでは業務改善に生かせる内容を学んだことは、今後のパス活動に大いに影響すると考えます。今回の学びをフィードバックし、研修会場の熱意を思い出しながらパス普及に貢献したいと思います。



このたび、国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院、副看護師長の齊藤大介さんからバトンをいただきました東京医科大学病院で診療情報管理士として勤務している金崎健之です。主にDPCや診療分析を担当しています。



金崎健之

私とクリニカルパス(以下、パス)の出会いは2022年です。前職も含めてほとんどパスとの関わりがなかったのですが、上司からパス委員会に介入して欲しいと依頼があり、最初はメンバーとして、途中からは委員会事務局を担うようになりました。皆さんも院内でさまざまな委員会に参加されていると思います。委員会に対する私のポリシーとして「ただ漫然と参加するのではなく、積極的に意見が飛び交い、前進することができる有意義な場にしたい」という思いがあります。そのためにはパスの本質を理解する必要がありましたので、委員会や院内パス大会運営、2022年の第22回学術集会@岐阜への参加を通じて段々とパスに対する理解を深め、パスの面白さが分かってきました。

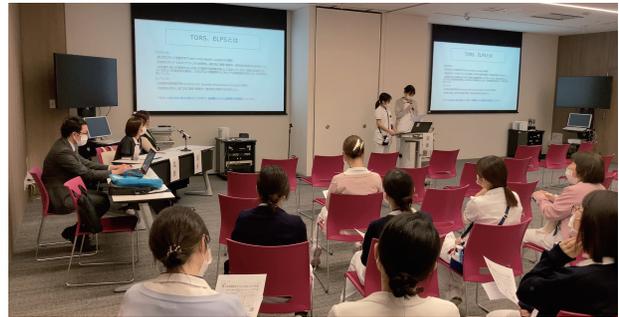
そんな中、私のメイン業務でもあるDPCとパスとの親和性が高いことに着目しました。DPCは「診断(医療資源を最も投入した傷病名)」「診療行為(手術、処置等)等」の「組合せ」ですから、これは疾患別、あるいは行為別に作成されるパスに近いものがあります。院内でDPCとパスに関わる分析を続けてきたところ、その成果を2023年の埼玉県さいたま市で行われた第23回学術集会にて“人生初”の学会発表することとなりました。光栄なことに学術集会賞セッションとなり、今回バトンをいただいた齊藤さんには当セッションの座長を務めていただきました。その節はお世話になりました。

パス活動に関して理解を深めていく中で感じたのが、他院含めて「パスには事務職あるいは診療情報管理士との関わりがあること」です。チーム医療にはさまざまな形がありますが、パス活動を通じて事務職もその一員として関わることはとても重要です。例えば当院ではパスの一次査読として申請書類のチェック、患者用パスのレイアウトや日本

語チェックを行っており、これは看護部から移行したもので多職種間のタスクシェアにもつながりました。

今後は電子カルテ更新というビッグプロジェクトが待っています。パスが円滑に稼働し続けられるよう引き続き向き合っていきます。

さて、次のバトンは、以前パスに関する勉強会で同じゲストスピーカーとして参加した縁から、青森県立中央病院医療情報部の神山智子さんにお渡ししたいと思います。



パス大会の様子

事務局より



2025年度

資格認定制度

「臨床現場における具体的なクリニカルパスの導入・運用および改善を支援する」という目的において、クリニカルパスの質を維持・向上することおよびその人材を育成することが必要と考え、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制の資格認定制度を設けております。2024年度から申請に関する要件が大きく変更となり、単位が取得しやすくなりました。

また、資格を喪失してしまった方に向けて、資格回復申請という制度を設定いたしました。詳細は下記URLより資格認定制度概要をご覧ください。

<https://www.jscp.gr.jp/nintei.html>

優秀英語論文賞 (JSCP Best Paper Award)

「学術的な研究を推進することを目的に、国際的に認められる研究の英文での発表を奨励する一環として、優秀な英語論文を表彰する」意図で、『優秀英語論文賞』を制定しております。皆様の応募をお待ちしております。

【応募資格】日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【応募期間】2025年1月15日(水)～5月30日(金)

<https://www.jscp.gr.jp/ronbun.html>

クリニカルパス教育セミナー

『楽しく学ぼうクリニカルパス ～知ろう！作ろう！使いこなそう！～2025』

2025年も、Web Live 配信での開催を予定しております。

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあってご参加ください。

【開催日程】2025年7月5日(土) 13:00～17:00 ライブ配信

<https://www.jscp.gr.jp/act7.html>

学術研究助成

研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【応募資格】主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)とする

【応募期間】2025年1月15日(水)～6月16日(月)

<https://www.jscp.gr.jp/josei2.html>

第25回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2025年10月17日(金)～18日(土)

会 場：富山県民会館、富山国際会議場

会 長：白田 和生
(富山県立中央病院 院長)

テ ー マ：クリニカルパスで目指そう Sustainable な医療

プログラム：

理事長講演、会長講演、招待講演、教育講演、特別企画、学会委員会
関連企画、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、
一般演題(口演、ポスター、クリニカルパス展示)など

第25回学術集会公式ホームページ：

<https://jscp2025.jp/>



会員向け教育コンテンツの公開について

広報委員会

広報委員会では会員の皆様に有益な情報を提供するために、会員専用ページに掲載する教育コンテンツの充実を図っています。

現在は以下のコンテンツを掲載しています。

- ・過去に開催された学術集会のポスター発表データ(PDF)
- ・論文の書き方セミナーの動画
- ・教育セミナー基礎編の動画

ぜひ、ログインをして内容を確認してみてください。

ログイン方法：



1. 日本クリニカルパス学会ホームページのTopページ右上「会員専用ページ・ログイン」をクリック。
2. ログインの際に必要なユーザー名・パスワードは、最新号の日本クリニカルパス学会誌の編集後記のページにて、都度ご確認ください。(パスワードは定期的に変更しております)

日本クリニカルパス学会 会員募集中！

日本クリニカルパス学会では随時会員を募集しております。お申込みの詳細については下記URLより学会ホームページをご覧ください。

〈会員の特典〉

- ・本会発行の学会誌、ニュースレター等の定期刊行物を受け取ることができる。
- ・学術集会で演題発表ができる。
- ・学会主催のセミナーなどに会員価格で参加ができる。
- ・認定資格を取得できる(個人会員に限る)。
- ・本会専用のメーリングリストに登録が可能。わからないことはメーリングリストで質問できる。

入会金：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円 法人会員 40,000円

年会費：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円 法人会員 40,000円

<https://www.jscp.gr.jp/contact.html>



発行

一般社団法人 日本クリニカルパス学会

〒104-0033 東京都中央区新川一丁目28番23号
東京ダイヤビルディング5号館9階 エム・シー・アイ内
TEL：03-6367-6226/FAX：03-6367-6235